

景観研究センター キックオフシンポジウム

テーマ

「北部九州の窯業に着目した文化的景観の形成と保全」

日時:2012年7月21日(土) 14:00 – 18:00

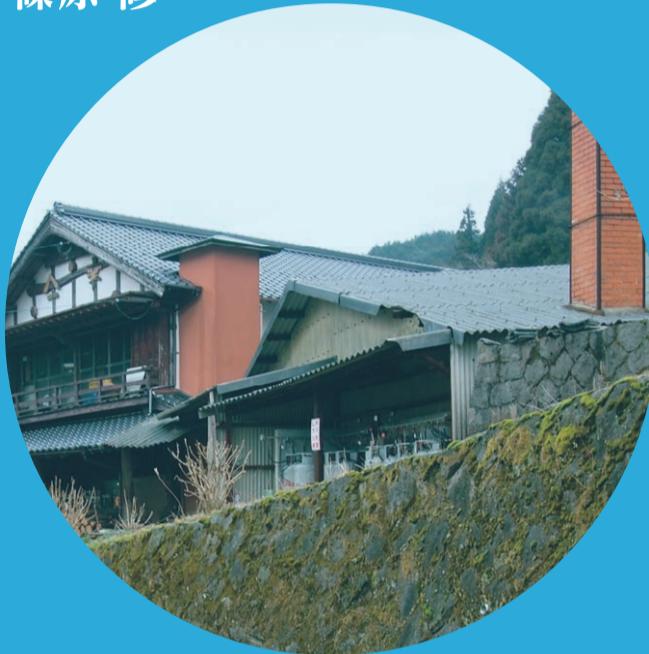
場所:九州産業大学 1号館 S201教室

基調講演

演題:「文化的景観とは」

GSデザイン会議代表・東京大学名誉教授

篠原 修



パネルディスカッション

テーマ:「陶芸の里と景観まちづくり」

パネリスト:テーマ・氏名[発表順]

「北部九州の窯業に着目した文化的景観の形成と保全」:工学部都市基盤デザイン工学科教授 山下三平(研究代表者)

「民芸運動と地域:産地の伝統的景観を評価する—民芸運動の地域表象—」:南山大学人文学部日本文化学科准教授 濱田琢司(文化地理学)

「陶芸と環境:小石原焼の場合」:柳瀬本窯元 柳瀬真一(小石原焼陶磁器協同組合・窯元)

「陶芸と環境:有田焼の場合」:芸術学部美術学科教授 梶原茂正(陶芸)

「小石原焼を生かしたまちおこし」:東峰村役場宝珠山庁舎 城辰也(まちづくり)

コーディネーター

工学部建築学科教授 日高圭一郎(都市計画)

懇親会

場所:九州産業大学 8号館1階クラブハウス

時間:18時 -19時30分

主催・後援

主催:九州産業大学景観研究センター

後援:土木学会景観・デザイン委員会、

日本景観生態学会、

九州観光推進機構

日本都市計画学会九州支部、

日本建築学会九州支部(予定)

趣旨

北部九州(福岡・佐賀・長崎・大分)には古来、小石原、小鹿田、高取、上野、唐津、伊万里、有田、波佐見など、陶芸の里が数多く存在する。

また石炭鉱山由来の景観材料である、炭ガラ焼瓦利用の伝統がある。地理的・歴史的に、韓国南部との交流、相互の影響が色濃い地域もある。

本年(平成24年)度から3年計画で、景観研究センターの研究プロジェクト「北部九州の窯業に着目した文化的景観の形成と保全に関する研究」が、文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(地域に根差した研究)の採択事業として始まる。

本プロジェクトの立ち上げにあたり、あらためて文化的景観を扱うことの意義と、プロジェクトの今後の方針と課題について、幅広く吟味する場・シンポジウムをもつことが重要と考える。環境美学を重視する、生きられる景観に関するものの見方を踏まえ、研究の位置づけを明快にし、実践的な歩みへの展開を確かなものにしたい。